

感染対策 ICT ジャーナル Vol.19 No. 3 2024 summer (2024 年 7 月発行)

Special feature

新型コロナを経て見直す

隔離予防策—手指衛生と接触予防策

■「隔離予防策のための CDC ガイドライン 2024 年改訂ドラフト版」Transmission Via Touch について 矢野邦夫

■原因菌不明時の先制的な感染対策 加藤英明

■手指衛生と手荒れ対策

- ①手指衛生の守るべきタイミング 森野誠子
②リンクナースとの連携強化による手指衛生の徹底とその成

果

三田村裕子

③手荒れ対策による手指衛生遵守率の向上 梶川智弘

■環境整備

①耐性菌対策としての紫外線照射の導入と運用 金森 肇

②環境消毒薬・ワイプの管理と手技 岡崎悦子

■病原体別接触予防策の実践

①多剤耐性菌 山田康一

②クロストリディオイデス・ディフィシル 水谷 哲ほか

③ノロウイルス、ロタウイルス 黒沼幸治

④疥癬 吉田博昭

感染対策 ICT ジャーナル Vol.19 No. 4 2024 autumn (2024 年 10 月発行)

Special feature

見極めて強化する 流行期の感染対策

■インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症・輸入感染症等変わりゆく日本の感染症流行 塚田敬子ほか

■流行期の疾患の理解と感染対策のポイント

- ①呼吸器感染症—新型コロナウイルス、インフルエンザ等 宇野俊介ほか
②感染性胃腸炎—ノロウイルス等 大石智洋
③蚊媒感染症—デング熱等 清水少一

■領域別流行期の感染対策のポイント

①外来・救急外来 太田浩平ほか

②小児科 田中沙紀ほか

③入院病棟 堀野哲也

④高齢者施設 村上啓雄

⑤精神科病院 加藤紘子

■Focus

①流行期に備えた感染症における地域連携ネットワーク構築の重要性 鈴木 潤ほか

②ヒトノロウイルスに対する環境清拭を再考する 小阪直史

感染対策 ICT ジャーナル Vol.20 No. 1 2025 winter (2025 年 1 月発行)

Special feature

経営的視点でみる

組織で取り組む感染制御

■2024 年診療・介護報酬改定とその対応

- ①感染対策向上加算 田中健之
②外来感染対策向上加算 川島 崇
③高齢者施設等感染対策向上加算 山根のぞみ

■アウトブレイク時の費用

- ①COVID-19 アウトブレイク収束に要する費用 高山直樹

②インフルエンザアウトブレイク収束に要する費用

橋本麻子ほか

■感染制御による医療費削減

①SSI 対策による医療費削減 山田浩司

②抗菌薬適正使用による医療費削減 沢田佳祐

■組織で取り組む感染制御

①病院機能評価受審の実践 小林 治

②JCI 認証取得の実践 中川雅貴

③ISO9001 認証取得の実践 野路加奈子

④有事に備えた感染対策物品の備蓄 田辺正樹

感染対策 ICT ジャーナル Vol.20 No. 2 2025 spring (2025 年 4 月発行)

Special feature

知識を整理する

手指衛生最新版

■手指衛生の指針の活用

- ①実臨床における WHO「手指衛生 5 つの瞬間」 川上和美
②WHO「手指衛生自己評価フレームワーク」の活用 黒木利恵

③CDC 手指衛生教育の 4E's プログラム 中澤 靖

④日本環境感染学会「生体消毒薬の有効性評価指針：手指衛生 2023」の活用 中川博雄

■手指衛生の教育法

- ①WHO TTT (Train the Trainers) in hand hygiene

日本での取り組み

鈴木由美

②VR を用いた手指衛生教育 内海桃絵

■手指衛生向上のためのコミュニケーション

①TeamSTEPPS の手指衛生への活用 美島路恵

②手指衛生遵守率アップのための組織マネジメント 濱野飛鳥

■手指衛生の実践

①手指衛生の評価—評価は消費量なのか回数なのか 岡本 耕

②手指消毒薬の成分と実施回数による有効性への影響 森兼啓太

③遵守率向上のための手荒れケア 石井 幸

④手指衛生における新たな試み 仲村 究

—オゾン水を用いた手洗いの最前線

感染対策 ICT ジャーナル Vol.20 No. 3 2025 summer (2025 年 7 月発行)

Special feature

エビデンスをおさえる
手術部位感染 (SSI) 対策

■ SSI 対策の指針・指標アップデート

- ①「SHEA/IDSA/APIC 急性期ケア病院における手術部位感染予防のための戦略：2022 年改訂」の要点 針原 康
- ②「手術部位感染予防のための CDC ガイドライン 2017」の要点 森兼啓太
- ③SSI サーベイランス—JHAIS・JANIS データの動向 赤木真治

■術前・術中・術後 SSI 対策の最新トピック

- ①消化器外科におけるロボット支援手術の SSI 対策
—臓器別知見とエビデンスに基づく管理 水内祐介
- ②整形外科領域における抗菌薬局所灌流 (CLAP) 圓尾明弘

- ③術野皮膚消毒薬の選択
—CHG, ポビドンヨード, オラネキシジン 竹内優志ほか
- ④術中の全身管理
—高濃度酸素投与・体温加温を中心に 小林 求
- ⑤術前・術中・術後の予防的抗菌薬投与の考え方 花井雄貴
- ⑥消化器外科領域における局所陰圧閉鎖療法の動向 清水潤三

■ SSI 対策デバイスとその管理

- ①保険収載を待たれる SSI 対策製品—PDS プラス[®], ペアーハガー[™], Alexis[®] ウOUNDプロテクター/リトラクター 渡邊 学ほか
- ②本当に大丈夫？手術器材を介した手術部位感染リスクへの対策—滅菌保証におけるインジケータの役割と蒸気滅菌用 BI の新しいアプローチ 酒井大志

感染対策 ICT ジャーナル Vol.20 No. 4 2025 autumn (2025 年 10 月発行)

Special feature

最新知見で挑む MRSA 対策

■ MRSA 情報のアップデート

- ①CA-MRSA の割合増加と耐性動向—今、何が問題か？
加勢田富士子ほか
- ②「SHEA/IDSA/APIC 急性期ケア病院における MRSA の伝播と感染予防のための戦略：2022 年改訂版」の要点 中村茂樹
- ③日本化学療法学会・日本感染症学会「MRSA 感染症の診療ガイドライン 2024」の要点 吉田耕一郎

■ MRSA 診療

- ①MRSA 早期診断のための遺伝子検査の活用 力武雄幹ほか

- ②MRSA 治療におけるバンコマイシンの使い方 尾田一貴
- ③MRSA 治療薬の各薬剤の位置づけ 倉井華子

■ MRSA 感染対策

- ①MRSA に対して常に接触感染対策が必要か否か 本田 仁
- ②MRSA アウトブレイク—早期察知と早期収束のポイント 山口哲央
- ③POT 法を用いた分子疫学的解析による MRSA の院内伝播制御 中村竜也
- ④薬剤耐性菌対策を支える環境清掃と消毒
—MRSA アウトブレイク対策を例に 石川かおり

■ MRSA 感染対策の重点領域

- ①NICU における MRSA 対策 千葉 均
- ②ICU における MRSA 対策 板津 良

感染対策 ICT ジャーナル Vol.21 No. 1 2026 winter (2026 年 1 月発行)

Special feature

変化に対応する
ワクチンによる感染予防

■押さえるべきワクチンのトピック

- ①ワクチン開発の最新動向と新たなモダリティ 林 智哉ほか
- ②予防接種の基本知識の再確認とアップデート
—ICT に携わる医療関係者が押さえておくべきポイント 齋藤昭彦

■医療従事者のワクチン接種の考え方

- ①領域別の曝露リスクとワクチン接種 多屋馨子

■患者へのワクチン接種の考え方

- ①高齢者の感染症ワクチン接種についての考え方 野嶋朋洋ほか
- ②変化に対応する妊婦と小児のワクチン接種 森内浩幸
- ③海外渡航者のワクチン接種 福島慎二
- ④【外傷・救急】成人の破傷風対策：
日常診療における追加接種と外傷時対応 久保健児

■新規ワクチンの情報

- ①新型コロナワクチン 中野貴司
- ②インフルエンザワクチンの新規技術—最新の開発動向と展望 長谷川秀樹
- ③RSV ワクチン 倉井大輔
- ④肺炎球菌ワクチン 西 順一郎

感染対策 ICT ジャーナル Vol.21 No. 2 2026 spring (2026 年 4 月発行)

Special feature

飛沫・エアロゾル・空気
空気を介した感染の予防

- 飛沫・エアロゾル・空気感染は今後どのようにとらえるべきか—「隔離予防策のための CDC ガイドライン 2024 年改訂ドラフト版」を踏まえて 矢野邦夫

■飛沫感染

- ①飛沫感染する病原体 新庄正宜
- ②患者・医療従事者の飛沫感染予防策 中島由佳

■エアロゾル感染

- ①エアロゾル感染の概念 加藤英明
- ②エアロゾル感染を踏まえた換気設計 林 基哉
- ③エアロゾル感染が原因と考えられる COVID-19 アウトブレ

- イク事例 宮良高維

■空気感染

- ①空気感染する病原体—エアロゾル感染の概念と原因病原体 藤田直久
- ②N95 マスクの正しい使用方法
—感染防止効果を最大化するために 野田洋子
- ③陰圧室の設計を知る
—医療施設における陰圧室計画のポイント 寛 淳夫

■トピック

- ①感染リスク評価ツール iRAT を用いた施設環境の感染対策評価と社会実装
—パンデミックレディ認証制度の構築と実装事例 堀 賢
- ②医療従事者を守るためのレスピレーター 大石貴幸